

株主の皆様へ

前年度連結純利益を上回り、2期連続の過去最高益を達成



2019年6月
代表取締役 社長 垣内 威彦

業績

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年度決算、2019年度の通期業績見通し、配当及び自己株式取得について、ご報告申し上げます。

2018年度の三菱商事グループの連結純利益は5,907億円となり、前年度と比べて305億円の増益となりました。

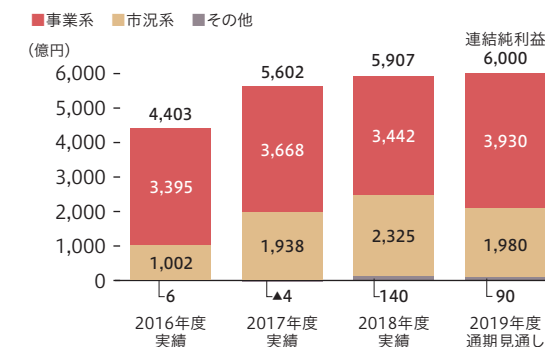
事業系では、LNG関連事業や自動車事業を中心に巡航利益(一過性損益を除いた利益)は

増益となったものの、インフラ事業や海外食品原料事業の減損などの損失により前年同期比226億円の減益となりました。市況系では、豪州石炭事業における巡航利益が増加したことなどにより387億円の増益となりました。

2018年11月に公表しました通期業績見通し(連結純利益6,400億円)は未達となりましたが、事業系の巡航利益による業績の下支えと市況系の勢いが継続したことにより、2期連続で過去最高益の更新につながりました。

2019年度の通期業績見通し

2019年度の通期業績見通しは、2018年度に計上した一過性損失の反動があるものの、外部環境の不透明さを考慮し、原料炭価格や油価について足元より低い水準で推移することを見込んでいることなどにより、2018年度比微増となる6,000億円を見込んでいます。新たなグループ体制の下、着実に計画を遂行し、更なる成長につなげていきます。



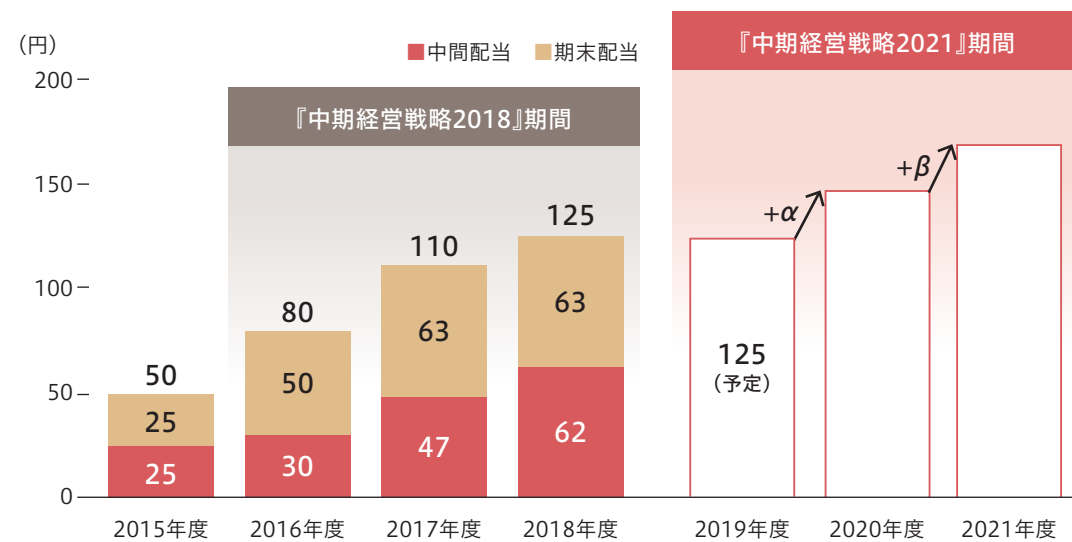
累進配当に加えて、自己株式取得を決定

株主還元施策

配当

2018年度の1株当たり年間配当は、累進配当の方針にのっとり、2017年度と比べて15円増配し、125円(期末配当63円)とします。2019年度の1株当たり年間配当は、2018年度と同額(125円)を見込んでいます。

■ 1株当たりの配当金の推移



自己株式取得

『中期経営戦略2018』期間中に潤沢なキャッシュ・フローを創出したことの総括として、投融資レバレッジ等の状況を踏まえ、資本効率の向上を図るために、自己株式の取得を決定しました。

配当、自己株式取得共に、この金額は過去最高額となります。『中期経営戦略2021』でも、引き続き持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針としており、今後とも株主の皆様への期待に応えていきたいと思っております。

自己株式取得の内容

取得金額: **3,000億円**
 *取得単価3,000円の場合は1億株(発行済株式総数の6.3%)
 *ストックオプション交付予定500万株を除き、全量消却予定
 取得期間: **1年間**

■ (参考) 投融資レバレッジの状況

